

まとめと振り返り

寺西先生のスイミーの授業は、本年度、本校がめざしている『書く活動』の重視という点からもすばらしい提案授業だったと思う。自分の考えをもつ場面とまとめの場面で書く時間が確保されていたこと、ワークシートの本文にサイドラインをひかせ自分の考えを書かせたことなど、よく工夫されていたと思う。そして、何より感心したことは、書く時間を生み出すために、ペアトークの時間を限ったことや倒置法の指導を後の時間に回したことなど、柔軟で用意周到な配慮がなされていたことだった。『書く活動』を充実させるためには、①いつ書かせるのか。②何を書かせるのか。③どのようにして書かせるのか。この三点が大切だと思う。

協議でも話題になったが、まとめと振り返りについて考えてみたい。学習のまとめをするとよく言うけれども、子どもたちがどのようになった時に学習のまとめができたと言えるのだろうか。授業の展開は、はじめ・中・おわり。導入・展開・終末。問題をつかむ・見通しをもつ・追求する・まとめる・次の問題をもつなど、様々に語られる。岡山型学習指導のスタンダードでは、本時のめあてが明確に示されていなかったり、本時の学習で何がわかったのかを子どもたちに意識させていないという課題を改善するため、めあてとまとめを板書などで必ず子どもたちに示すとされている。しかし、「まとめ」を板書することで、子どもたちの学習がまとめられているかとなると少しばかり不安である。学習者と教材との関わり方、学習者と指導者との関わり方、学習者と集団との関わり方などの視点は、ここでいう「まとめ」には表れてこない。

藤井先生が「学習のまとめには何が書かれていればよいか。」といった疑問を協議の中で出されていたが、結構意味深い発言だと思う。わたしは、まとめとは学習問題（めあて）に対する答え、分かったこと、できたこと。振り返りとは、教材に対する思い、学び方に対する思いととらえていた。そして、問題を解決したことによって生まれた次の疑問を大切にしていた。みなさんはどうとらえているのだろうか。このあたりは学校としての考えをそろえておいたほうがよいと思う。

また、スイミーの授業では、まとめと振り返りの両方を書かそうとした。スムーズに授業が展開したにも関わらず、振り返りを書く時間はなかった。自分の経験でも、各自のまとめを書かした後に学級のまとめをし、さらに振り返りを書かせるという展開は無理だった。45分の中におさめていくわけだから、どちらも大切だといっても両方書くのはむずかしい。これも、学校として基本的な方法は決めておいたほうがよいと思う。

夏季の校内研修を楽しみにしている。